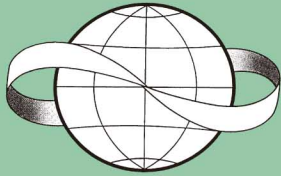


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



商標登録第4882482号

第58号
(新年号)

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
東京都東村山市久米川町1-16-18
TEL: 042-395-9788
FAX: 042-395-9787

謹賀新年

代表理事 吉浦 高志

新年明けましておめでとうございませう。皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられたことをお慶び申し上げます。平素より、各市政、市民の皆様には組合事業に対しご理解と、ご声援をいただき、組合員を代表して厚くお礼申し上げます。

昨年はアベノミクス効果で消費が上向き景気も上昇気運になりました。鉄、非鉄、古紙などの再生資源物も大きな値下がりもなく順調に推移しました。古紙に至ってはIT化による紙使用減に伴う排出減と新聞の未購読所帯の増大による新聞古紙の発生減そして、輸出価格の高騰で大量の古紙輸出が続く、などの要因で国内製紙会社への古紙納入が逼迫致しました。景気回復の影響を受け私共の事業環境も少しづつ良い方向に動いていく兆しも見えました。残念な事に東日本大震災による被害、とりわけ原発事故の影響により今なお避難生活を余儀なくされている方々の対応は遅々として進んでおりませぬ。一日も早く、安心して暮らせる生活を築かれることを切に願います。

本年は昨年決まったオリンピック開催に向けてより一層の景気回復を期待したいところですが、四

月からの消費税値上げが、自動車、マンションの販売好調や東北復興事業に起因する消費増大などの景気回復要因に悪影響が起きないか心配です。古紙消費量、回収量は未だリーマンショックからの落ち込みが続いています。特に出版物と印刷物減少が顕著で、高齢化と人口減が拍車をかけます。

「古紙持ち去り」問題も関係五市のご協力により新聞古紙にGPSをセットしての、持ち去り古紙買入れ問屋の特定が出来る様になりました。それにより、特定された問屋に訪問して買入れの注意をお願いしております。しかし、法規制から逃れているため全面的な協力を得られず、まだまだ努力が必要です。そのような状況でもGPSの抑止効果が働き、一部地域では持ち去り人が減少し、古紙集荷量が増えたとの報告も有ります。一般市民の方に正規の古紙回収車両と持ち去り車両の識別を解りやすくするための、古紙業界組織による「STOP古紙持ち去り」ステッカー制度も昨年度は千台近くに達しました。それでも、目標には届かず努力がこれからも必要です。

更に必要なのは、法整備です。条例で規制されている区や市も有りますが何も無い区、市も三〇%があり、罰則項目の有無もばらつきです。目標としては、都条例の制定による警察の取り締まりです。都

議会や、国に私共の窮状を訴え、都条例の制定を請願しております。又、上部組織では国の法律制定を努力しております。今、持ち去り古紙の問題がマスコミで取り上げられていますが、この時期を逃さぬ事が大事と思っておりますので、市民、行政の皆様のご協力をお願い申し上げます。

各市政からの委託事業は厳しさが増すとともに、方針変更のある中も安全第一を基本に、作業員の健康管理と作業能力の向上を願っており、講習会、勉強会を適時開催しております。又、官公需適格組合の姿勢として安全作業と法令遵守の励行を作業中に検査を行い確認しております。本年は、高齢者の資源物排出負担軽減への関わりや、家庭内のまだまだリユースできる資源物の研究、安全な街づくりの為の防犯への協力など、組合として取り組みたいと考えます。

最後に、午年は千支でラッキー七、走り回り大きく跳ねる年です。組合も安全第一を貫き、市民の負託に応え、今まで以上に循環型社会構築に努めてはならない組合、安心して任せられる組合になってまいります。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



組合創立二〇周年を 記念し報告会を開催

当組合は平成二五年七月二日をもち創立二〇周年を迎えたことを記念し、去る平成二五年九月二九日(日)東京・立川市「パレスホテル立川」にて『創立二〇周年の歩み』報告会を開催した。

当日は休日の夕方からの開会にもかかわらず、地元自治体、関係業界から多数ご出席頂いた。



講演される森下正教授

講演要旨は、「アベノミクスによる経済動向」「企業・組合のライフサイクル」「組合が有する繋が

り力の意義」「連携・組織力化の本理念の必要性」など事例を挙げて説明された。特に組織の「繋が

り力」は、各自が自立していかない原因を他人のせいにならないで自分に求めることが大切だ。と力説された。



理事長退任を表明した
紺野理事長

紺野代表理事より推薦を受けた吉浦専務理事が壇上に上がり、代表理事の重責をやり抜く覚悟、地域リサイクルの要として組合が先

頭に立って進んで行く決意を表明しご来賓よりあたたかい励ましの拍手を頂いた。



次期理事長となる
吉浦専務理事

引続き、東京都中小企業団体中央会より当組合へ感謝状の授与、また当組合より各市リサイクルセンターに長年勤務し組合事業に貢献されている従業員へ感謝状を贈呈した。

ご来賓を代表し、小林正則小平市長、渡部尚東村山市長、そして当組合顧問をお願いしている木原誠二衆議院議員・山田忠昭都議会議員・谷村孝彦都議会議員・齋藤敦都議会議員、そして肥沼茂男東村山市議会議長よりご祝辞をいただいた。

報告会後半は(社)東京都リサイクル事業協会顧問・(株)資源新報社代表取締役太田原秀義氏の乾杯で祝宴が始まり、東京都中小企業団体中央会振興課木部明課長、関東製紙原料直納商工組合大久保

信隆理事長、東京・多摩リサイクル市民連邦小石恵子代表理事、(社)東京都リサイクル事業協会中村正子理事よりご祝辞をいただいた。



組合活動報告をする
福田青年部長

続いて、組合員の後継者で組織する青年部より組合活動報告。安全に業務を遂行するために行っている検査、回収員講習会の様子や地元で開催されるイベントへの参加の様子など日ごろ行っている業務について映像と共に福田雄二青年部長から報告。青年部員の紹介と合わせ、「今後の組合事業について、次世代にバトンが渡せる環境を作っていくことが重要な役割として青年部が担っている。関係各位に今後も変わらぬご支援をお願いしたい」と挨拶し会場から盛大な拍手と励ましの言葉を頂き、当組合相談役土井益二郎の中締めで定刻閉会となった。(山本)

二〇周年の歩み報告会 紺野理事長挨拶

本日は、大変ご多用な中を関係各界よりご来賓の皆様多数のご来臨を賜り心から御礼申し上げます。また森下先生には、大変含蓄のある貴重なご講演を賜り、ありがとうございました。

当組合も長年に亘りまして、各界の多くの皆様方との「繋がり力」のお陰をもちまして、今日を迎えるはこびとなりました。有難く感謝申し上げます。

組合が誕生した平成五年当時を思い起こしてみますと、リサイクル市況は大混乱している頃で、国も地方自治体もごみ減量リサイクルの推進に本腰を入れた時でした。

多くの市民の皆さんも、環境活動に真剣に取り組んでおられ、夜も徹して「とことん議論」を交わしあった時もありました。その中で、今も大活躍して居られます市民の方々にもご臨席賜りました。各市役所にも熱血漢溢れる、課長係長さんなどおられました。(お

名前割愛) 思い出話もきりが無くありまして、昔話を始めると止まらなくなります。

組合の歴史は、二十年史にまとめられましたので、省略させて頂いてここでは、私たち組合の現況報告をさせて頂きます。

組合の行政範囲は、「多摩北部都市広域行政圏」と呼ばれる小平・東村山・清瀬・東久留米・西東京市の五市を活動拠点とし、周辺市や埼玉県一部も営業範囲としていきます。

五市合わせますと、人口は七三万人弱と練馬区より多く、面積は約七七平方^{キロ}メートルと世田谷区と中野区を足したより広い面積になります。組合員は、現在一四社で、各社で雇用している社員と組合職員合わせて一八五名、組合各社に所属している回収業者を加えると約三六〇名の人員を抱えています。

組合員が所有している古紙プレス機は八台、各種回収車輛に重機類などを加えると一八〇台以上稼動しています。さらに専属の回収業者車輛を加えると約三三〇台が日夜地域の資源回収に従事して

います。

組合員の所有している回収ヤード全てを合計しますと、約四千九二〇坪になります。

土日祭日無休で年間三六〇日以上営業している組合員が多く殆どフル稼働体制をとり、設備車輛人員の効率的な運用による低コストシフトを確立しております。

零細な一四の事業者の集まりではありませんが、設立当時は一五社で一五社分の仕事量しかありませんでしたが、今ではその三倍四倍の仕事量に拡大した共同事業体制も確立しております。

その存在は、地域にとって貴重な財産であると云われますように、全員が誇りを持って、理念を持って、環境を守り、次世代に引き継ぐと努力をしています。

今組合で一番困っていることは、資源物を横取りする悪質業者が横行していることです。市民の財産を持ち去り組合の存続をも危うくしている持ち去り業者を、絶対に許すことが出来ないのです。今日はその課題に共に取り組んでいきます関係業界の方々多数のご臨席を

頂き、リサイクル業界清掃業界のトップリーダーに勢ぞろいして頂きました。どうぞご歓談を盛り上げて頂いて有意義なひと時となれば幸いです。

さて、人生にも起承転結があると常に自分に言い聞かせていたのですが、気が付けば、起承転転と転がり続けて今日まで来てしまいました。

組合二〇周年の記念すべきこの日に、理事長職を辞すことに致しました。

(すでに断髪式の方は済ませてありますので！)

なお、次期理事長には、当組合の専務理事で、東京都資源回収事業協同組合理事長として活躍しております吉浦高志氏にお願い致します。

今後とも、東多摩再資源化事業協同組合そして新理事長に皆様の変わらぬご支援ご指導のほどを、切にお願い申し上げます。

長い間、多くの方々には沢山のご厚情を賜りありがとうございました。

臨時総会で

吉浦高志新理事長就任

平成二五年一〇月九日（水）の定例理事会後、紺野理事長から出ていた辞任届けを受けて臨時総会を開催した。

総会では、紺野理事長の辞任を受理し、新たに紺野琢生（株式会社三栄サービス）が理事に選任された。直ちに理事会を開催し、理事全員の信任を得て吉浦高志（株式会社久米川紙業）を新理事長に推挙した。

紺野前理事長は、常任顧問として主に事務局を支援する。

また新たに三役・委員長及び監事を選任した。

理事 長	吉浦 高志
副理事 長	萩原 貞雄
総務委員長	古川 敏雄
財務委員長	小畑 和夫
副理事 長	紺野 琢生
業務委員長	水野 彰
専務理事	田中 彰
広報委員長	
集団回収	
委員長	
福利厚生	
委員長	

官公需適格組合
共同受注検査委員長 土井 三幸

監 事 渡辺いつ子
監 事 奥山 慎吾
青年部長 福田 雄二

新任挨拶

吉浦高志・代表理事

この度、当組合第二代代表理事に就任致しました吉浦高志です。組合設立以来二十年間務め上げた紺野前代表理事の後任ということ、大変な重責を感じております。

組合設立当時と現在とでは、資源リサイクル環境は大きく変わり、市民の皆様のごみ減量に対する意識向上、行政からの支援、循環型社会構築の為の各種リサイクル法などの制定・施行等により、日本はリサイクル先進国となりました。

今後は、私達の身近にある雑貨品でもどこかで大事に再利用できないか、再生資源としてリサイクルできないかを考えながら、国内・国外を問わず必要とされる再生利用、再資源のブランド化を作りあげて参ります。また、後を絶たない古紙持ち去り行為に対して、毅然たる態度で撲滅に向けて臨む次第であります。

地域リサイクルの良きパートナーとして、これからも当組合が先頭に立って邁進し続けます。今後とも宜しくお願い致します。

紺野琢生・専務理事

一〇月の臨時総会において、新たに専務理事としてご承認頂きました紺野です。理事就任早々に責任ある立場を頂き、その重責を感じつつ、吉浦新理事長の下で新たな時代を切り拓いていくことへの期待感も感じています。また、合わせて、広報委員長の指名も頂きました。ヴィーナス通信、ホームページ、リーフレットなど、様々な媒体を活用し、地域のリサイクル情報の発信に努めてまいります。

何分若輩者ですので、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、これまで、組合青年部の副部長として、創部以来組合業務への協力をしてきた経験を活かし、組合発展のために尽力してまいります。もちろん、青年部活動の方も、青年と呼んできたの間は続けてまいりたいと思っております。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

土井三幸・官公需適格組合

共同受注検査委員長

一〇月の臨時総会で、新しく官公需適格組合共同受注検査委員長に就任致しました土井三幸です。官公需適格組合である当組合は、業務品質向上を図ることが求められており、年に四回以上、自主検査として官公需受注検査を実施しております。厳正な検査は勿論、作業員の皆様には業務品質の向上に努め、安全第一で業務に臨むことをお願いしています。

私自身、最初の内は不慣れな点があり、ご迷惑をお掛けすることもあるかもしれませんが、受注委員・検査委員の皆様と共に、検査を通じて業務の品質を高め、地域の皆様より信頼される組合づくりに努めて参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

官公需適格組合更新手続完了

当組合は官公需適格組合認定期間満了により更新手続を行い、厳しい検査の末、一月九日無事更新された。更新後の認定期間は平成二九年一月一日迄。なお、この認定を受けている資源リサイクル組合は全国でもごく僅かである。

古紙持ち去り根絶へ向けて！

古紙持ち去り問題に関しては、これまで何度か本誌で取り上げてきた。今回は、この古紙持ち去りの問題点の整理と、現在の取り組みについて、まとめてみたい。

古紙持ち去り行為はなぜ問題かというのは、大きく分けると三点ある。**お金の問題、安全の問題、信用の問題。**

まずは、**お金の問題**。行政回収に出された古紙の売価は、日経相場を基準に、回収手数料を差し引いて自治体に支払われることになっている。また、集団回収なら、回収量に応じて助成金が支払われる。これらの回収に出された古紙を、委託業者以外の持ち去り業者が取っていった場合、自治体に支払われる売り払い代金、団体へ支払われる助成金が減ってしまうことになる。また、回収効率の良い新聞や雑誌のみを抜き取られることで、回収量は減っても返って回収コストが膨らんでしまうということにもつながる。

次に、**安全の問題**。持ち去り業者は、通勤通学時間なんてお構いなしに、皆様の家の近くの生活道路を暴走することがあるため、市

民の皆様の安全安心な生活を脅かしています。また、集積所から、回収効率の良いものだけをあさった後の整理整頓をしないで散乱させたり、駐停車のマナーもよくないので、歩行者や車両の通行の妨げになることもあり、危険である。

最後に、**信用の問題**。私たち委託業者は行政と市民の皆様との信頼関係の元、委託契約をし、車両装備や作業服、収集方法に至るまで決まりごとに則って作業を行っている。また、皆様からお預かりした貴重な資源を一〇〇%、永続的にリサイクルするシステムを築くための努力をしている。持ち去り業者が、ルール御無用で作業したり、良いとこ取りをしてみんなで築いてきたリサイクルシステムを乱すことは絶対に許せないのだ。当組合は、行政、問屋業界、回収業界などと連携して、持ち去り対策の様々な取り組みを重ねてきた。当初は、持ち去り車両との差別化を図るため、委託業者であることを示すステッカーや横断幕の表示、回収員の作業着の統一などから始めた。その後、早朝持ち去りパトロールとして、朝七時から早朝回収を開始した。そして、本年から本格的に始まったのが、**古紙持ち去り根絶宣言車識別制度**

〔「識別制度」への参加と、GPS端末による持ち去り追跡調査
〔「GPS調査」〕である。〕

まず、『識別制度』であるが、回収業界と問屋業界、再生資源業界団体合わせて七団体（現在は八団体）が連携して持ち去り問題意見を交換会を設置し、古紙持ち去り根絶を宣言した車両に対して識別ナンバーを振ったステッカーを発行し、持ち去り車両との差別化を図るものである。このステッカーを付けている車両が、持ち去りに加担しないのは勿論であるが、逆に、古紙持ち去り行為をしたことが判明した場合、氏名公表や『識別制度』からの除名処分など、重い十字架を背負わされる。当組合では、この『識別制度』に、組合で使用している全回収車両を登録した。また、組合員の問屋に持ち込んでいる組合員ではない回収業者にもこの制度への参加を広げている。

次に『GPS調査』であるが、こちらは本年四月に西東京市と締結したのを皮切りに、清瀬市、東久留米市、東村山市、小平市と協定を結んで実施している。関東地区では比較的早い段階で取り組みを始めたこともあり、テレビや新聞の取材も数多く受け、取り上げて頂いたのでご存知の方も多いか

もしれない。調査の内容としては、集積所にGPS端末を仕込んだ古新聞を仕込み、これを監視、万が一持ち去られた場合には、GPSの位置測定情報を元に追跡し、納入先の問屋を特定するというものだ。本年六月以来、毎月各市で実施され、これまでに数回持ち去り業者を追跡し、納入先の問屋を三件特定した。この問屋に対しては、関東製紙原料直納商工組合を通じて、二度と持ち去りの荷物を買入れ無いように厳重に抗議をした。現在、引き続き定期的な調査を実施していく中で、抑止効果が出ており、持ち去り業者は一時よりも減少しているように感じる一方、持ち去り業者も受け入れ問屋も特定化、悪質化しているようにも感じる。行政、業界団体が一体となって古紙持ち去り根絶へ向けて取り組んでいこうとしている中なので、当組合としても、地元警察等とも連携し、更なる取組の強化を図っていききたいと思う。その際に、一番のカギとなるのが、市民の皆様からの通報だ。持ち去り行為を見かけたら、車両ナンバーや特徴、発生場所などの情報を組合か地元自治体に通報して頂きたい。（※危険なので、声をかけたり写真を撮ったりしない）

（紺野）

フィリピン視察旅行

参加レポート

一月一日〜三日の四日間の日程で、東京都資源回収事業協同組合のフィリピン視察旅行に参加させて頂いた。

一日目視察先

【ニューポートエリア】

輸入品の家電製品や自転車、スニーカー、ヘルメット、ギターなどを扱うお店が並んでいて、ジャンメのミシンや小型冷蔵庫、洗濯機、オーディオが多いように感じた。中でもミシンは人気があり、



型式によっては高く売れるそうだが窓につけるエアコンや小さなテレビなどは、同じ型式のものが沢山並んでいて、ホテルなどから一気に引き上げた物で、家電製品は輸入してから現地で電圧を変えて売っているらしい。また、自転車の防犯用ダイヤル式の鍵を外している少年がいた。鍵を壊さずにも外しても、鍵がかかったままでも売れるらしい。



二日目視察先

【スモークマウンテン】

この場所は、以前ゴミの処分場として、スカベンジャーと呼ばれる人たちがゴミの山から有価物を拾い、生活をしていた場所だが、七年前に閉鎖された。バスを降りて近くまで行ってみたが、ゴミの臭いはなく、ただの小さな「山」に見えたが、よく見てみると、実際はプラスチックのようなものが沢山顔をだしていた。上のほうには今も住人がいるらしく、テントらしきものが見えたが、住人を見ることが出来なかった。



次に、現在の処分場へ向かった。道中、スカベンジャーたちの住居が立ち並んでいた。足元は分別しているプラスチックで一杯。足の

踏み場がない・・・というよりも、分別するゴミの上で生活をしている・・・といった光景。フィリピンではゴミの焼却が禁止されており、トイレがないところも多く、直接袋などに排泄物を入れたものが集まるため、集まったゴミの中から売れるものを選別し、売却すると





いった仕事はスカベンジャーにしか出来ないそう。中には小さな子供たちの姿もあったが、バスが見えると明るくこちらに手を振ってくれるのが、とても印象的だった。その先にはフェンスの前で銃を下げ、警備をしている男性がいたため、中には入れずに引き返すことになった。そこからサイ市にある、「ピナカ・ムーラ」というオークション会場へ向かった。

【ピナカ・ムーラ】

日本から輸入された雑貨品や家具などをオークションで販売している所だった。会場には雑貨や家具が所狭しと並んでいて、引き出物によくあるような箱詰めやセツト食器や日本人形、時計や引き

猫、奥のほうにはベッドやテーブルなどの家具、ソファ、壺、ぬいぐるみなど、一般の家庭にあるものが沢山並んでいた。雑貨などの細かいものもたくさんあり、どうやってオークションにかけるのかわからなかったが、靴、衣類など



はまとめて箱に入れ、その箱ごとオークションにかけていた。箱の中身をがさつと机にひっくり返し、身振り手振りで売りさばっていく様子は、見ていて面白かった。司会進行をしている人は、テクニックがかわれ、この会社で一番給料が高いらしい。引き猫や日本人形など、日本では年に一回出すだけの季節物であっても現地では富裕層に人気があるそう。



【東京プレミアム】

フィリピンの元首都、ケソン市にある、リサイクルショップへ。大きな道路に面したお店で、中に入ると高そうな家具やブランドバック、仏壇や羽子板などが並んでいて、値札を見ると日本で売られ



ている価格とさほど変わらない印象。富裕層が多い地域らしく、客層に合わせて陳列されている商品も高そうなものばかりだった。フィリピンでは「MADE IN JAPAN」ではなくても、「FROM JAPAN」ブランドが確立されているというところで、ここで目にした家具の殆どは昔からあるしつかりとした家具だ。だが最近では、倉庫型店舗で売られている組み立て式の家具など、長く使えるものではなく、デザインや価格を重視して家具を購入する人たちも増えてきているようだ。

次に、オークション会場の社長である吉田さんが経営するジャパンサープラスへ向かった。ここは大きな倉庫で、特に食器類が多く見られた。



二日目最後は、完山金属さんの現地法人である、ボルトコントロールディングへ向かった。工場は住宅街の中にあり、さつきまでとは

まったく違うおしゃれな造りの家が並んでいる場所の一角にあった。ここでは、日本で解体し輸送した自転車を、組み立て直し、販売する。組み立ての作業がスムーズに行えるような配置がされていた。コンテナにどれだけ多く荷物を詰め込むかが勝負になるこの仕事。日本での積み込みは数時間かかるそう、自転車も日本で解体する際にカゴは取っ払ってしまい、こちらで中国製の新しいものを取り付けているそう。

三日目視察先

【ジャパンセレクトション】

ブックオフに勤めていた秋山さんが経営するショップ。フィリピンに一〇店舗あるうちのひとつ、



アラバンのショッピングモールにある店舗を見学させてもらった。ジャパンセレクトションは、日本のリサイクルショップの過剰在庫などを仕入れる為、無料に近い価格で仕入れ販売しているようだ。この店舗はベビーグッズや生活用品などが多く見られ、商品も陳列もとてもきれいだ。東京プレミアムのような高級感漂う店舗ではなく、主婦が入りやすい店舗。細かいおもちゃなども種類別に細かく分けて陳列してあり、売れ残って廃棄しないため、価格を調整するなどして売り切るそうだ。商品の配置やスタッフの教育など、いろいろ苦労したらしい。

今回の視察旅行に参加し、様々なことを感じた。単純に、日本国内で不要とされているものでもまだまだ大事に使って頂ける、ビジ

ネスにつながるというワクワク感と、さらに国内の流通経路についても調べてみたいという気持ち。反面、子を持つ親として、同じような小さな子どもたちが非常に劣悪な環境で暮らし、働いている現状、ごみの処理をするのに必要とされているながら、社会的地位が認められていないスカベンジャーの方々の置かれている立場に対する憤りなどを。今でこそ、環境だりサイクルだ、注目されている私たちの業界だが、少し前までは、くず屋と呼ばれ、社会的には低くみられていた時代もあったのだと思う。何か私たちにも出来ることをしていかないと感じた。それは、私の思いをこうして皆様に伝えること、また、ビジネスで貢献していくことではないかと考えている。

日本ではごみの減量につながり、海外では、安くて品質の良い日本の中古品が流通するというWIN-WINの関係になるのであれば、すぐにビジネスにつながるだけでなく、長い目で取り組んでいきたいなと思った。

今回の視察研修のツアーを組んでいただいた完山さんを始め、現地でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

(青年部 吉浦)

東村山第二中学校 職場体験受入れ

去る一月二八日〜二九日の二日間、東村山市立東村山第二中学校の職場体験学習があり、当組合では、(株)三栄サービ
ス、JP資源(株)、日興紙業
商事(株)、(株)ケイシンの組
合員四社で受入を行った。

各社にて朝礼を行い、トラッ
クに乗車し古紙回収や、ヤード
内にて選別作業などを経験して
もらいながら、古紙が、どのよ
うに回収され、選別加工され、
どこに運ばれるのかを理解して
もらった。積込・選別となれな
い重労働に、普段スポーツを行
っており体力に自信のあった生
徒もきつそうにしていたが、一
生懸命がんばっていた。



JP資源(株)ヤードにて
古紙選別作業体験

午後、組合の二階で、リサイ
クルの勉強会と牛乳パックで作
る「紙すき体験」が二部構成で
行われた。勉強会ではまず、受

入れた組合員の会社名の入った
中学生の名刺を作り、名刺交換
をしながら自己紹介を全員で行
い、ビジネスマナーの基本を体
験した。組合の紹介をさせても
らったのち、排出されたごみや
資源の分別方法・資源回収方法
等を学んだ。



紙すき体験を行う
中学生達

紙すき体験では、数日前から
牛乳パックを水に浸し、ラミネ
ートを剥がして作ったパルプ液
を使い、はがきサイズの再生紙
を作った。禁忌品(感熱紙等)を
混ぜてみたり、絵の具を垂らし
て模様の入ったはがきを作った
りして盛り上がりました。最後
にリサイクル実カテストを行い、
無事に職場体験を終了した。
職場体験は、中学生にとって
進路を決めるうえで非常に有意
義なものであると思う。今回感
じたことが、彼らにとって仕事
を考える時の物差しになるはず
だからだ。そんな機会にお手伝
いすることができて良かった。
彼らが大人になった時に、リ

サイクルの業界に目を向け、内
外から環境問題に取り組める仕
事についてくれたら嬉しく思う。
(青年部 水野)

回収作業運転者 安全講習会を開催

平成二五年一月一日、東
多摩再資源化事業協同組合では、
毎年恒例となっている「第五回
資源回収車両運転者安全講習
会」を東村山市市民センターに
て開催した。

御来賓として小平市ごみ減量
対策課・課長 細谷毅様、東村
山市ごみ減量推進課・課長 榎
本文洋様、東久留米市ごみ対策
課・業務係長 城市智輝様、西
東京市ごみ減量推進課・統括技
能長 三村元彦様の関係四市の
ご担当の方々にお越しいただい
た。御挨拶として、日々の回収
作業に対する感謝、市役所に寄
せられる住民の皆様からの電話
の内容、GPS端末による古紙
持ち去り調査への協力のお礼、
そして安全講習会出席の成果と
して住民の皆様からより親しま
れる回収の実現の希望等を頂い
た。

動の中でご縁ができた、ヤマト
スタッフサプライ株式会社の上
野正信様にお願ひした。



ヤマトスタッフサプライ
株式会社 上野正信様

ヤマトスタッフサプライ株式
会社は皆さんもご存じの「クロ
ネコヤマト」の人材教育サービ
スを行う会社である。今回は
我々の業に沿った内容の講義を
行っていたため、事前の打ち
合わせの段階で我々の業務内
容を理解していただき、資料等
の作成もして頂いた。参加者の
各社従業員からも大変好評な講
習会となった。
最後に、事前の打ち合わせ等
に大変なご協力をいただきまし
た、ヤマトスタッフサプライ株
式会社の一之瀬和彦様に心より
の感謝をさせていただきます。
(青年部 福田)

例年講習会のメインの講義内
容については苦心してきたが、
今年には上部団体である東京都資
源回収事業協同組合の青年部活

小平市環境
フェスティバルに参加



去る九月七日(土)、厳しい残暑が残る中、小平市環境フェスティバルが、福祉会館前市民広場を会場に行われました。

春夏の各市リサイクルフェアに引き続き、今年の春より開始された持ち去り車両識別ステッカー制度、GPS端末による追跡調査実施により、対策が強化されている「古紙持ち去り問題」、「集団資源回収」についてのアンケート調査と、トイレットペーパー「ブーメラン」の配布、古紙の分別等に関するパネル展示を行いました。

古紙持ち去りについては、大多数の方が認知しておりますが、

実際に持ち去り行為を目撃したことがある方は半数以下にとどまりました。持ち去り行為を目撃し、注意した方の中には、持ち去り業者からひどく恫喝され、怖い思いをしたことを切実に話された方もいらっしゃいました。また、市の貴重な収入源になっている資源の売り上げが奪われることや、持ち去り車両が信号無視や一方通行逆走等、交通法規を守らず非常に危険な点については、以前よりも認識をされていますが、まだ充分とは言えない感じがしました。

私達をはじめとする正規の古紙回収業者の車両に貼付している「STOP!古紙持ち去り」ステッカーについては、春夏の各市リ



古紙持ち去り・集団回収についてのアンケート調査

調査実施: 東多摩再資源化事業協同組合

<実施日と実施会場>

平成25年5月26日(日曜日): 西東京市いこいの森公園「西東京市環境フェスティバル」
 平成25年6月2日(日曜日): 東大和市役所前広場「東大和市環境市民の集い」
 平成25年6月8日(土曜日): 東久留米市役所「東久留米市環境フェスティバル」
 平成25年7月27日(土曜日): 清瀬市台田公園一帯「清瀬の環境・川まつり」
 平成25年9月7日(土曜日): 小平市福祉会館前市民広場「小平市環境フェスティバル」

Q1. 持ち去り業者を

	見たことがある	知っているが 見たことが無い	知らない	合計
西東京市	105	130	57	292
東大和市	99	89	33	221
東久留米市	150	239	104	493
清瀬市	61	91	46	198
小平市	128	125	52	305
合計	543	674	292	1,509

見たことがある方、その後どうしたか(複数回答)

	注意した	市役所に通報した	何もしない	無回答	合計
西東京市	11	15	79	2	107
東大和市	14	7	74	4	99
東久留米市	24	15	107	4	150
清瀬市	9	9	44	0	62
小平市	25	5	98	0	128
合計	83	51	402	10	546

Q2. 持ち去り識別ステッカー(右写真)を見たことが

	ある	ない	無回答	合計
西東京市	100	192	0	292
東大和市	77	144	0	221
東久留米市	180	311	2	493
清瀬市	70	128	0	198
小平市	110	195	0	305
合計	537	970	2	1,509



Q3. 集団回収に参加しているか

	参加している	今は参加していないが参加したい	知っているが参加していない	知らない	合計
西東京市	90	0	88	114	292
東大和市	69	30	48	74	221
東久留米市	205	49	109	130	493
清瀬市	86	27	35	50	198
小平市	97	52	81	75	305
合計	547	158	361	443	1,509

サイクルフェアでのアンケート実施時より貼付車両が増えてきているものの、導入から半年程度しか経っていない事もあり、認知度が依然として低い結果となりました。

集団資源回収に関しましては、少子高齢化が急速に進んだ為に、止めたという事例を、その一方で、マンションにお住まいの方より、管理組合を主体として行っている事例を伺う事が出来ました。形を

変えながらも集団資源回収が続いていることを感じ取りました。

今年も多くの方の市民の皆様とふれあう機会に恵まれました。アンケートに御協力して頂きました皆様には、この場を借りて深く感謝を申し上げます。

(豊岡)

かみかみコーナー

東村山市・八国山緑地

晩秋の小春日和に八国山緑地を訪ねてみた、八国山緑地は狭山丘陵の東端に位置し、かつて駿河・甲斐・伊豆・相模・常陸・上野・下野・信濃の八か国の山々が望めたことから八国山と呼び伝えられている。緑地内に足を踏み入れると野鳥の声で歓迎される。シジュウカラ・エナガ・コゲラ・モズ・ジョウビタキ・シロハラ・ツグミなどがこの山に来るようだ。

山の東側から入り、なだらかな坂をしぼらく歩くと「將軍塚」がある。この塚は、元弘三年（一三三三年）鎌倉幕府を倒そうと上州で挙兵した、新田義貞は同道を南下し、小手指ヶ原で幕府軍と対戦したが苦戦を強いられた。その後、分倍河原（現・東京都府中市）の



合戦でようやく勝利した時、義貞がこの地に一時逗留し、塚に旗を立てたことから將軍塚と呼ばれるようになったと伝えられている。塚を後にし、尾根を歩いていくと、おぞら広場という、開けた場所がある、そこは近所の園児がのびのびと遊び、そのほかにほっこり広場・ひだまり広場・ころこる広場などがあり小さな子供には最高の遊び場だ。



広場を過ぎると下り坂になり、そこには「ふたつ池」がある。江戸時代この辺りは「かじ谷（やつ）」



という地名がつけられていて、現在の八国山緑地とほとんど同じ形をした山林となっていた、その南側を流れる北川沿いには水田が広がり、ふたつ池は水田用水として、人工的に作られ利用された溜池だ

ったようだ。明治十三年の資料では、ふたつ池は「鍛冶谷池」と「鍛冶谷小池」という名で呼ばれていたが、昭和三十九年に東村山市が誕生したことから「鍛冶谷池」・「鍛冶谷小池」の名前がなくなり、「ふたつ池」と呼ばれるようになったようだ。

この小さな山を二時間ほどかけて歩いてみての感想はまるで軽井沢か八ヶ岳高原の中を散策しているような気持ちになり、とてもリフレッシュできた。皆さんも仕事などで疲れたら、お弁当持参で八国山緑地を散策してみても如何でしょうか。

追伸 トトロには会えませんので
(佐藤)



行事・行動

【平成二五年一〇月】

- 八日：東資協・理事会
- 九日：定例理事会・臨時総会
- 一〇日：東資協・フィリピン研修
(二二日まで)
- ：千葉県資源リサイクル事業協同組合二〇周年
- 一二日：ごみ・環境ビジョン21シンポジウム
- 一四日：古紙持去意見交換会
：小平RC責任者会議
- 一六日：(社)東リ協会・理事会
臨時総会
- 十七日：東資協青年部・定例会
- 十八日：青年部会議
- 二一日：東大和市審議会
- 二二日：官公需共同受注検査
(西東京市)
- ：清瀬市GPS追跡調査
- ：東村山市GPS調査
- 二三日：中央会・全国大会(滋賀県)
- 二四日：東村山市GPS調査
：広報委員会
- 二五日：官公需共同受注検査
(東久留米市・柳泉園)

二九日：東大和市審議会

：業務委員会
：財務委員会

三〇日：東久留米市GPS調査
：官公需検査委員会

【一二月】

- 七日：小平市GPS追跡調査
- 八日：東資協多摩拡大理事会
- 一一日：定例理事会
：柳泉園RC会議
- 一二日：小平RC責任者会議
：青年部会議
- 一五日：回収員安全講習会
：健康診断
- 一六日：日資連・理事会
- 一八日：財務委員会
- 一九日：古紙持去問題意見交換会
(関東商組)
- 二〇日：(社)東リ協会・理事会
：青年部会議
- 二二日：古紙ジャーナルシンポジウム
- 二三日：(社)東リ協会・神奈川り
団連総会
- 二五日：古紙持去問題部会(関東商組)
- 二七日：西東京市審議会
：業務委員会
- ：東村山市業者連絡会議
：古紙センター・業務委員

会

二八日：東村山市立第二中学校

職場体験学習(二九日まで)

二九日：西東京市GPS調査
：東久留米市GPS調査

【一二月】

- 三日：畑俊一(全原連前会長)叙
勲祝賀会
 - 四日：業務委員会
：広報委員会
 - 五日：都中央会決起大会
 - 九日：小平市地域懇談会
：東資協・理事会
 - 一一日：定例理事会
 - 一二日：官公需共同受注検査(東村山市)
 - 一三日：組合忘年会
 - 一九日：財務委員会
 - 三一日：仕事納め
- 【平成二六年一月】
- 六日：仕事始め
 - 八日：中央会・賀詞交歓会
 - 一〇日：古紙センター新年会
：定例理事会
 - 一七日：(社)東リ協会・理事会
 - 三一日：組合賀詞交歓会

編集後記

今号より、編集長を仰せつかることになりました、広報委員長の紺野です。これまでと変わらさず、いや、これまで以上に親しみやすく役に立つ地域のリサイクル情報発信に努めてまいりたいと思えますので、宜しく願います。

さてさて、旬年の瀬の話を書こうと思いきや、発行は年明けということ、馬の話をしなくてはならないようです。

私、馬券は生まれ一度も買ったことがないものですから、馬という動物も熊本で食べた馬刺しのことしか思い出せません。馬のレバ刺しが本当に美味しかった。先日、浅草にさくら鍋の美味しい店があると聞いたので、近々行ってみようと思っています。

この流れだと、オチは、『馬は美味(うま)いな』ですって？
いえいえ、天翔ける馬のような一年にしたい崇高な思いとは裏腹に、『意馬心猿(いばしんえん)』今年も食欲始め欲望には勝てそうにありません。

え、あなたもですか？それは、『馬が合いますね』
前理事長の嘆きが聞こえてきそうですが、『馬耳東風』、俺は俺、今年もよろしく願います。

紺野